

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 堀江 隆典	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	運動部活動指導者育成事業		
目的	(1) 対象	児童生徒	
	(2) 意図	できるだけ多くの生徒が運動部活動に参加しスポーツの楽しさや喜びを味わい、豊かな学校生活を体験する。	
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> 運動部の専門的な指導者を補完し競技力の維持・向上を図るために、運動部の専門的な指導者がいない中学校・高等学校に対して専門的な知識を持った地域指導者を派遣し、顧問指導者を育成する。 指導経験が浅い指導者や地域スポーツ指導者に対して、指導力の向上を図るため全国のトップレベルの指導者を招聘して研修会を実施する。 		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	運動部への入部割合（中・高校生）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		61.50	62.00	62.50	63.00	
式・定義	中学生、高校生のうち運動部に入部している者（国立・私立を含む）/全中学生・高校生数（国立・私立を含む）	実績値	61.00	56.90	62.60	62.30			
		達成率		92.50	101.00	99.70		%	
指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位		
								目標値	0.00
式・定義	実績値	0.00	0.00	0.00					
	達成率		0.00	0.00			%		

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	25,141	25,170
うち一般財源(千円)	21,856	21,816

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

<ul style="list-style-type: none"> 運動部活動への入部率は前年度より減少し、目標値をわずかながら達成することができなかった。 平成26年度の中学校生徒全体の運動部活動の加入率は、68.81%→67.97%、女子の運動部活動の加入率も53.92%→53.32%と減少傾向にある。 平成26年度の高校生生徒全体の運動部活動の加入率は、56.5%→56.6%、女子の運動部活動の加入率も41.1%→41.0%と前年度と変わらなかった。 中学校に比べ高校の入部率が低い数値となっている。
--

6. 成果があったこと（改善されたこと）

<ul style="list-style-type: none"> 顧問が転動しても地域スポーツ指導者の存在によりある程度競技力が維持されている。 多くの生徒は、運動部活動に関心を寄せ、教員や保護者も運動部活動の教育的価値を認めている。 学校の活性化、生徒の自尊感情の育成に大きく貢献している。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

<p>①困っている「状況」</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門的な指導ができない顧問や指導経験のない教員の増加 指導者の確保と資質の向上 運動部活動への入部率の減少
<p>②困っている状況が発生している「原因」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域指導者の派遣要望が増加しているが、顧問指導者の育成につながらない。 部活動を運営する上での校内の指導体制が十分でない。 運動離れや運動習慣の二極化や女子の入部率が低い。
<p>③原因を解消するための「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動部活動の顧問が自立できるような体制づくりが必要である。 管理職を含め運動部活動の方針に対する共通理解が必要である。 生徒が運動を楽しむことができるような運動部活動にしていく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

<ul style="list-style-type: none"> 生徒減少に伴う休部や廃部に対して、県中体連、県高体連と連携を図りながら方策や対策を考えていく。 種目別指導者研修会を実施し、部活動指導者の指導力向上を図る。 地域社会との連携を図りながら、「運動部活動地域スポーツ指導者派遣事業」を充実させる。 運動部活動の意義を踏まえ、学校の状況を把握した上で、生徒の自主的・自発的な活動を大切にす。
--

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）

--